

私は二〇一〇年の六月頃ゆいまいる学園に入りました。最初のうちは自分かとても驚しめるといった状況ではなく、授業も受けることができませんでした。みんなの輪の中に入ることが怖くて、一人で先生とマンツーマンで授業をしてもらう形でした。授業を受けられない時は、周りの子たちはちゃんと生活の流れにのれているのに：自分は普通じゃないのかなとさらに落ち込んでいたりしました。そしていつになつたらみんなと同じように授

業を受けられるようになるのかと、先の見え
ない不安がありました。そしてその他にも人
にどう見られていいのかという不安がありま
した。さかのぼって考えてみると、

高校

特に部活のこ

とで悩み、指導する立場になり、でもなかな
か自分の思うように上手くできず自信がなく
なりみんなの前に立つのが怖くなり、パート

の子とも意見が分れ衝突したりして自分の中で黒いものがどんどん大きくなっていき、高二で不安が強くなり、高校に通わなくなりゆいまいる学園へ来ました。ゆいまいるではみんな優しくしてくれたのがとても有難かったです。二〇一一年になり浪人を決めたら私に変化が始めました。授業が受けられるようになり、友達とも交流できるようになりました。些細な事が心配になったりしましたが、勉強ができるようになったのは大きな前進でした。

一般の受験生よりも頑張っているのでは？という気持ちがあり病気と付き合いながらの一年でしたが自分なりに頑張れるようになったと思います。先生にメールで心配なことを聞いてもらい、少しずつ不安と向き合っています。ゆいまいるでの友達みんな優しく、私が頼つてばかりだったなと思います。素直で一緒にいて安心できました。大学へ入学すると環境が変わり、不安や心配も増えてく

るかもしれませんが。でもそれより新しい生活が楽しいです。辛いときはゆいまいるで過ごすことを思い出して夢を叶えたいと思います。